WA 8
5
4止

東京圖書館
和書門
小說類
別つ企函
五三架
69五〇號
四冊

鴉鷺合戦物語 ＷＡ8-5 04-001 国立国会図書館

鴉鷺合戦物語目録巻四

東京圖書館藏

東京圖書館藏

故柳原芳埜納本

柳原家蔵

ゆはとりろうこくはか猶法九月廿六日
合戦あろう殺ん事
まさくろ此状を見てさしも和見つる高聖を
同んせばいくまんなとてゆはとり詠うこく
たりせに狭合を知時公高野山を指ふやせば
とて合戦をとゝ御る所なよあらす奉囲るん
とか我もあろふくきうをうこらい待る所
き今度此合戦も身ましとりての志やうかひ
に存すり冒御く分るすあらもいきて二さひ
御目ましかり所ろ所ろずさまはひよくとし

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-002 国立国会図書館

鴉鷺合戦物語　WA8-5　04-003　国立国会図書館

鴉鷺合戦物語　WA8-5　04-004　国立国会図書館

と記しかされともあつさ弓よりきあく語を
引かへして又夕々さ海くりいくさの
ちりあとをめづらしかる山城当云此勢
を雑兵実むしや二りわけてさうひようを
ゑ小留いま座ぶさとにかくしをきて聖ふし
ともとはかゝむしやりんさう大将大原つし
ま待まへしよせていせんを鳥の一軍しそま
さくろかをもむきにきしさうへめんくよ
こちさをさそく一味せほかくかも引を思ひ
しくなり今夜もさやうりし待ほしみくさハ
河原中にうち出くひかへるんを見て其時

歌乃志あん一もすくむかゝ法さかけんをる
時一をひさわひき城りかゝわてとりえか
へさんりし歌こまをとの妄勢を一をゝかけ
座ぶらんとかんをる所を志りくこらへ
て一合戦火を發さん時をゑ八幡乃法せい鳩
をしく海鷲乃あらまよこあひりし入かへを
あん小相違して或ハこゝかひ或ハ引志わそ
きてよせてのいくさしどろからん時かゝ
盈所乃さうひやういりあを大勢のよそ扱ひ
みてふたうしさふらひうちあはせても死を
ほし馬つき牛法まを野とも川とをいふ座り

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-005 国立国会図書館

らす事へなさまんとするとあろを大原法し
より足ゆの野ゆしともれしよくやれ射
あろさせ川れ越ひてくうれ忍あるの忍に
せんといへはめんくこうかさんはとぞ同し
けるいくさ的日にさゝめしかれ我園林には
一きちいんの庭こゝか死お立をしまんこゝを
葬て今夜中鴨をせめねとさすさいきてゝ
へらしと食てうし神れ我のみてひやうじい
くゝりと整り会仏志い六字の名号をくひに
かけ法花家を妙法の五字をかきしるし
かきくれを知時禅家とてくるらをうちかけ

こわありふれにはこわかいくゝを志き気く
のよろひをきてくるられおかゆきてきし
らふのやうにぞ見えこわくゝ知時云此家れ
も屋う初より里かひきうをこそしくゝぬをふ
まれ西に本分れりなへりせそん霊山舎上
にして一枝の花をさし皇百万乃大庭かつて
あまをしられ海かせうのこひとりみせう
をと紀れしせそんかせうれしつけて云れ
正法眼蔵祢もんの妙心ありまんちにふそく
をならひれしな難に勅して不就乃傳紀たん
せんせしむるなるまといつりしるし

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-006
国立国会図書館

よわこのかさ志やうの和陰うぐきろ毎に下
心々お敬して今に此る里なわこの苑ハ是見
物見知ちらすちげ田里に及ぶ所にあらず
文字によらず数理にあらずひつきゆう
して是るに其のぞ思ひ見る面し志かりといへ共
いまだ十成の禄にあらずまつかに此家の初
門なり面し法家なんそふぎんといふとも武
勇には禄相違せり歓にあらず合てうんしと
うち合するこんてきのミ別に法なし御志う
ていせれも屋ういく法苑会仏ハ史をまりた
は習也今の時分見こくしのくまく志うある

面らしずとたまふ事きれは法苑家のいたく
さんはいこんおかくうへ共この合戦中には
いりてか所存をはや面にそとてまらひける
此々九月下旬なまは東山りミぢして李秋を
眞を語うり我園林には林かんに酒をあるこ
ためんと紅葉をこき石上に詩を面へして
綴たいをちらひるんと詠して此ぞハ志も
忘んにくしき日々歓々なり大勝ぐん志もう
の事なまはやともあらもこそ菓枕にかわ
称して物を花をひを廉の者に又うちそふ
なりなしこのむしは花くく風の者いり

鴉鷺合戦物語 WA8-5　04-008　国立国会図書館

まけ見えけり所に男ひ乃かりあらそ手をハ
住吉の御勢よりあひに入りんとまぼあらん
をしてくる御法と引志わそくにはとりのときき
きりのなりせ大勢なれはいかてかあしをた
むへきひと引ましひく知時愛しそのうまぬ
死所よといふまゝに手勢三百騎なり一足
も志わそかす青鷺乃伝説の雪が手にかけあ
りは勇士とくのおあひなまなよの御心に
うちあふて死をちらしてこゝろひこわなむ
志やさ抜らつうさまは目がかり一騎南手れ
御をとのりかゝりひ弟里なるそのあわ

さ波ハうちまけせめたる中相基乃まんれ
うん所さびしくこまの足なミ入みこまて風
見うハなりて八方を取ぶり死志や角鷲ハ威
をふるひてあらりを井くひをるそのなさら
なゆを似わ屋ふ川御屋ぶられつ波くれ御ま
くゝ事川ひとりものこらしとこゝろひとり
志かまとも みくハ こんこむらになわて歌
さいやましまうさなりをまぼ母勢ゆ
りはして知時きり志あして一名字百騎なり
里波くゝをなし面て一所にふを共鬚あまを
見てゆひかひなき者ともうなさはかりの大

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-009 国立国会図書館

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-010 国立国会図書館

せめ来ると空くをまはせんかたなく足よハ
とは皆志のなせて熊野ゆへ志よのものなれ
ハ三山をこのミて本宮をこんせんと紀の地
をさして落ゆく所を國乃用ん所あし並
けり和方乃浦ゆへ鷺の森の鷺まつりあひ
なれば熊野へ立うなりはいはて此森所こ
ゑわけるをはしひてせめなまばあしをもて
つして鳥乃とうゝ所こそこわるそもうの
城とかゝ紅菊無双のせん所紀別第一ゆよう
うひなわ峯ハなるそうゆ雲をさしてさゝ若
ハへきまうなんしんなわ是はこひさうしく

一労おやまそハ子足ゆそこのみちんとから
んるすうこうひなくけりしきをよちあるひ
そなくめ所傳ふ一まいり法をせきふのそ
めハ百万をおふ面うゝはとかやかうんよく
此闕乃をんなんとかくやと思ひしらまこわ
其鬚この城にして心へらく正素天下のはさ
をさしはかりはせきのをおらて一とふこふ
こもめるん何象と思ひしかしうん乃きりめ
とてまのこのせみる落うせをれはしをも
もてく山詩をはこひて高野山にのぼりをく
乃境にして佛法僧をこれ稱く云れ不宜の

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-011
国立国会図書館

鴉鷺合戦物語 WA8-5　04-012　国立国会図書館

されはきこんとも見ゆてゆるし申べくり今
あひ手りよ里ゆへもやりてうゝそわ衣を
きせけり其類別に法名りひはましきとて烏
何源陀佛とぞこのこゝろは陀り乃事南
山宿法ゝとも其言を聞ちとしてとんせ
い老も念仏なわ我来を大かた念仏志のやう
なわ来世志よくらんのまゝは称んぶつをも
法を宛用とも其まあこその三字は法雖遠の
三身空假中乃三身ハ宿生本来乃佛性百界千
如志んら万そう此三字にこえまわあと云ハ
通去の子仏空たい法身如来源と云ハ現在れ

千佛けたい雖身ゝよらい他と云ハ未来れ子
佛中身ハ遠身如来何乃字をとなふまゝ八十
八使の見あく九十一ゝ乃田あく我新もろ源
の字をとなふまゝ無始廣こうの叢沙れあく
ゑうを断し他の字をとなふまゝ四十ゝの無
明の根本を断三身といふは法身ハ生仏一如
の理めいこ不二の性報志ん乃おらく法来乃
形大照陀固乃仏おうまゝ八相成道の如来忍
と本現乃もうゝ陀しやもくしてなわ屋す
目もまゝ那くしてもてかたし法門もし拝
たくひて称んぶりなる面しさまは法称ん

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-013 国立国会図書館

上人もたとひ一代志やうきやうを学といふ共
無智とんこんのあま入道れ身にしるわて只
一向に念仏を面しとしそ以へ又浄土家とて
鎮西西山にしまる里ころそまたおひこくし
是法門をこん里うし義理を論する念仏にて
晩学のお家なんとのたやすくうかくふ面を
にしあらすもとより世方ハ文才も法入るけ
にしいへもこゝ往生極楽のこゝめとなりお
にしめして法中以へといふ鳥の浄陀佛ゝ門
としくさて九りん往生のゝ升をうを中時
上りん上生下りん下生のやういる神にて以

うせ云時にしいふ上品上生ハかいごを指て
往生と申せば口にとなふ事のこゝにてなけ
ふ以又下品下生ハ浄土にしすといへ共ある
ひは八こう或ハ十二こう蓮花にしたく浄土
中法乃やくにのこゝあ門かりて見仏をん法乃
こゝをあらうをひらくことをまらすふるき足ゆ色
安養界下りん下生の人のこゝし蓮花の中
にて法の小こゝ觀音説法を中とて所たくれ
まんげ乃中宮殿乃ことくにして紀仏紀菩
薩まてこゝめにし法をとくと見えこゝり又鳥の
浄陀佛れ云あり奇にし

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-014 国立国会図書館

格案ニ ゆうんとおもふ話しそ
地獄におちつはしめなり
といふあまたのひとへに称んぶつ乃本意ハ
そむきはとなりてあり念佛者ハ不しんして
はし地こくにしたそまたしめとゆはめす
時ゆをう紀志ゑるすなうけ給りそもと
よわねそろしき地こくにしをそ御ハ知ん
てもなさるすはいかあるきこるのゆうかや
はあらう奇をかなうにしてしまして先
てつのきんもくをはふまた名歌乃所詮をなき
物也大家ハ本意地こくにおはうたしめ何乃

ふしんかはある時ハ馬服里よりへにこくし
を時を地獄にさたにしねらてうまを楽とす
又そ人天勝妙乃楽にしかこわてあまをよろ
こびとす迷紀ハこそ里て隔縁ハ変せんしそ
大家ハ物うまひにそハ人々ハ我性生志た
里とて足ひつ志ひく苑番ハあきみちてくを
川けいせんはいきうち大悪かけうち屋うハは
ら志かわといへともきハ志うまつあり根に上
下あり紀化のやくハ長きいゑん也地こくへ
ねちしと思ひてひこゆハ御中はへといへ
えありうこくにとて柴乃戸ハあくまハ松風

乃さらぬ事つけても熱して足を西方に
をとりけると云ふ事なくなるひを聞してそ
侍りけるあしに山城の雪ハ合戦にうち繰て
瀬底をきもせしにいかなる志ゆく志うかん
けるつゝくうき世の變化をくまんするに
色にし合戦のありさ海いかいさんとちらし
兵じやうちりを海ひてさしをたゝくまし
かまん志やうちなも序時乃ふもとなわて
いさつゝにふもきゝ下に名のミ知せり朝に
紅顔あつてせひろ事か事とも夕に白
骨となつてかうぎんよくらぬと云事いま

さら田志ゝまほし世間をのうくそなわゝら
こまむ川か堂道にたゝりてこのかとハ妻子
ゝんそくのいふを耳にいらすおうそふ
きてそ侍けり松風ありく掬さびしく空く
きれた

はれ事我をむへき山乃さひしさ哉
今よわからふ新のまれか物

連雲ひよくのよしみをむるしくしてかの高
聖山事のがり東市作をさろ孫けり其鬚田
かけさるゝ事はいりなるそとてお
あいはさやうの君に老者事はなしと云

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-016
国立国会図書館

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-017
国立国会図書館

とてうこをそわ衣をきせ候まばこまも自鷺
なる孫陁佛とぞつきにけうちとひたらひるまま
ともさはしくとしてかほくろに志んしやう
なる禅門なわなれまううる白こんの袖を
すこそめのあろもりやけしうへいこまし
きうる空こき掛れにかひハかうの煙り志
こうつり海あとに思ひいまこうけしきるわ
抑此聖こち世をいとひあうう生涯の名字を
まてけるを故をかや軽を堂侶のむりしハ法
乃さと家屋をもすくれ乃志ゆまへきもすし
鷺ハあろく鳥ハくろしまつらをしをるんそ

てんせいのうちをあらたむ屋きや志うまま
せ利生門りおる時志けうくやくそくかや
うこをそわ衣をきう衣ハ孫すこ気にしてま
こりあらす是黒白ふこ門にして鷺一味
乃あらなをあらりけうとおもくこわ鷺なる孫
陁佛といふむりし三井寺山門のこゝめりし燒
ちうゆまし場金一宇ものこらさりしを宿洗
しとしく皇方こにたいさんせしにを修学志
一人志んらのは寛おにまいまてふうくけう
寺の滅亡をすけきけくはいとゆこひれをう
こをさしけけや志こ里しは義志にすんち

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-018 国立国会図書館

鴉鷺合戦物語 WA8-5　04-019　国立国会図書館

て今を夜もとをうりしほうとのはれか
家和をしぐらろさん乃面の和菓廣の中なく
なれ青煙万寛寒具小菓ていおて座り笑を
作せ万年人事樹頭風といひし白石易隠
石乃頭思おらまほしくうん氣のなさへをいこ
ましめ洗弦としてたまたいをけせ菓もなく
酒もなくしまんをすしともりせきまう一
億乃中小夜すかりかりかりまりまれば何
うなくと思へ生口ちりなる樹とてハなる
なしてをあらハこそ腹中ひしうす也紀
と紀法を読事あちなかりし小生俗乃

くまへけいやこいしうりきん鳥何ぞこぶつ
云今ハ俗縁さまはかまて世間れるにをい
てあやう紀不すしもとよわ高聖山の聖乃且
さるまはいまや國をもめくわて世をも廣く
なしいけまもんひとつなまはめつらしき不
をあらを志りし唐わをむをひく素者本分乃
田地に出く田鳥をもひろいてうへをさし元
秋を山家村里れすなぬをもしていのをかり
ねらかをもひろいていよく仏種をせうお
うせんといへを鷺の泳陀佛気をそんして云
豊方をなまま禄家にて法のりねちもほうぬ

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-020 国立国会図書館

るすをのこ俤らまはぞや禄の目に鷺志雪に
立く同名ならす時月乃花たり似すまんと
云て我くもかこの心しく禄をはうづひ久世
会仏りきえんありて此山に住す鳥なこと
ふ川云我にも石智の八句紫格宮中に鳥うを
いこく銀河波底り魁猫をおもとは鷺あこ
たぶ川云まり此方れ中るすをはやはへなか
乃田地いげまの所にかある宿生此田地り
海よふてこそ生死ゆゑちん里んしはへ又
山家林里れす海井いり神れ物もむきはや山
翁薪をとまはぎよおうつわをころ農所志ん

夫の物りまひとく山和尚の佛祖てんきやく
乃まぐこ玉格其十成苦をはくまばそこなく
とんうんとなる然其はに所存乃一理どうしく
俤らまうへやなりはせはなるしきうな
や南世乃禄を見るに偏に地獄乃こうとのこ
覚くていよくこんぐ淨土乃みすくみはも
とより禄は格大家の法心さしまそ修せんに
は又うへかはへきかさまは来世とはいへとも
さる名志やうのみこそ多く空えられはへ是
は邪見のたくひしとに世俗乃禄を中はまる
てるけまは誇地こんらん志こるをもしらは

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-021
国立国会図書館

或ハ桐ニ下ふかり或ハ手に結て知識及人を
をかめそし分故にや聖徳太子未来記ニ祝
行の僧尼あつて先徳の法そくを屋ぶり無知
の男女あ法を法乃邪正をたんをとあり今此
時代ニ下あひあこまを里いけれもめくらの馬
なまはにふまりする法門をニ下あふ後の
ふこをてかむまはよしと心得てはかれをそ
らしまんをれとももとよわ及ぶるけまを一
和ニ半時乃座ぜんをもせはやきしか神の
一たんををとこするのを時ましてかつ
是ハ僧乃先姓を云陰られ数々月をさすゆひ

とてこまをきらひ法く祖師の言句をいさつ
らニ門をくを里やくとて是をさ
なりしあんきやくす文字なりも経なりとも
いさううじふ及あらハたんにやのけちえん
あり面をよりくのしこの禅家ハ地獄の縁
をやむすふらん又々文字乃みにしてなん条
不足文字とてふとんのうへをあん志うを是
又さそのかきり也をてニ連慶乃安心けに
事上より行け志氣力状と云より里文字をけ
まり志々是氣力よりしとゆへハさとり行て
さへ文字より入をうくしそのへあふまし

て不けく文字のきき兄姫を云てを安やくうる
或ハ南射乃始法を見姫をまゝと云方を一黒
れ水を一きまうつすといふ事を他家他門
乃さとりまあらず両さしく見まば我家ハ
いひ儲ふることの義をしらねやしらねのこ
ゝして洗ふ事ハいひなすハか智菩提のさ両
ふけ誠り思ひしらまゝりをし僧をめす
よく是人ハとをしに因果なつむ乃あら
禄しう名利後世の慈知識あしなを本ハいひ
立くをいり成是理り立へきそ人を見るゆを
世城守ゆを物知ねしそくをつけいなまゝん

しうひをうおくら禄ばなつ后獄乃ねそれな
し弦ハ数をを文字をもひとけりきらふ
ハはあらず一度さと思うる人れ是学かゆた
ゆ力まんを鬼りなさいをう成ゆし在家
れ禄のを様をふ故心をさ紀としてきをめて
不しん不善也大なるハ大ハつきハなるを又
ハにつけ道りしたうひ義りしそむく主君の
あきゝるやくなす弓矢れ是の為ならばぎ
やうゆか両しき禄法を紀略して合仏を中を
ゆし南世弾ハをや分相神明熊聖のそらせい
怖ぢん虚へん執志をうたくをんこいこやう

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-023
国立国会図書館

鴉鷺合戦物語 WA8-5　04-024　国立国会図書館

南無三寶此世の中やく[illegible]とはおらて[illegible]
まる相を称んぶ川にて以何か[illegible]おかせらま
はまてこそ会佛をは中は[illegible]しまうを和
ぬ中とわかりかん手をすゝふ川とりてを
うまはん人ゆはとわのと紀をりのまりせいた
て来る禅家にてはいれ川よこ孫をせを自こ
此思里やうこくしかりしときしにあ
ましめて宛様の物ゆひやいれ此上のまこ
らきまことに死中に話を元こる者と思こ
こり豊方ハ口ゆは禅をはとるへ今世はあろ
そるに蓋ともるしまやたんハまけらかりと

いへる鳥ぞこ紀なるたをるしあせを
うりめていまは何をかくしゆへき志いらく
俗氣此うりひはしゆくれ川ひよはとゆお
してら一家あやはらすハいぞる姫を志る
事をえんかんるふ別菩提なる[illegible]とざんぎ
さんげしてをくのぬんのまいりあん
志川をむをひく多志やう一[illegible]ん小孫んぶつ
中てはれ小山中をかぎきやうこうとしうつ
里てともに七旬にしあまり大旦う志うれそ
くまいをとけらうこそ誠にありかたれそ
万数てん也此あとりいとふ世更れいと

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-025 国立国会図書館

まろ屋ゝ寸ゑうんを負いの身ハまそ世
はゐ小まそられぬ屋しあしたかえいらまを
ひらくとのゆふ屋小は安堂乃うせりいこ
ましむきのふハ家ハきんの家ゝかこ分とを
うら今日ハきろ乃嶽り紀を何そせろかれ
すきうを挑して いこつゝり三途永ゝ乃
苦を海ゆりんや照桐のけらくもまんまうの
かきりあわいまんや忍んぶ不定のけらひ小
おゐくをや是をあんまるか三界乃泉報を苦
をもつて楽とす六道乃里ん忍を祢ん小より
て生をうく人間乃百事見てもむすしく

ゆそもおろかなわおよそ鶉鷺乃闘浄せうせ
き一小あらすといへ世上乃神社を鋭ずるか
い河連ゝ実なる自他乃不利を思へもとも
まきこあやまれ里あるひハおごり或をひら
みかいふんり海よへりまんぞ海さくろこ
おこりことなるんよ清を為道設なきなす
をしるして人世れあやまりある事をしめ
きこのなわ

鶯安二年正月吉日

岩木利兵衛開板

枇原家蔵

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-026 国立国会図書館

鴉鷺合戦物語 WA8-5 04-027
国立国会図書館